

進路通信

廿日市中学校
第11号
09月28日(月)
発行責任者 吉本邦治

進路希望調査について

★受験する高校のことをどれだけ調べているか？

勉強に力を入れている高校の場合、7時間授業や勉強合宿を行うことがあります。部活動がんばろうと思って入学したのに、勉強が大変で部活動どころではなかったということもあります。「こんなはずじゃなかったのに…」ということにならないように、受験する高校のことをしっかりと調べておきましょう。

また、通学にどれくらい時間がかかりそうか、バスやJRを乗り継いで通う高校の場合、朝何時に家を出ることになりそうか、通学費はどれくらいかかりそうか、保護者の方ともよく相談しておきましょう。



★受験する高校はすべて入学する可能性のある高校である！

今のあなたは、第1志望の高校のことしか考えていないのではありませんか。もちろん、第1志望の高校に合格できればいいのですが、試験がある以上、みんなが思い通りになるとは限りません。仮にあなたは、『第1志望が「公立」のA高校で、「私立」ではB高校を受験しようと考えている』ということにしましょう。そんなときあなたは、「私立」のB高校に対し、A高校に合格できなかったときの「すべり止め」として受ける高校…という見方をしていませんか。もしもA高校を不合格になったとき、あなたはB高校に入学することになるのです。「すべり止め」というように仕方なく受験したという気持ちでいると、実際に入学することになったとき、B高校に対して夢や希望を持ちにくいのではないのでしょうか。やはり、「第1志望」のA高校、「第2志望」のB高校という意識で、どちらも入学したい高校として受験に臨んでほしいと思います。

次に、その「第1志望」の選び方です。受験できる高校は、「公立」が1校、「私立」が1～2校ですから、「公立」のA高校が第1志望のあなたは、「私立」の中での第1志望であるB高校が第2志望になると思います。A高校への合格の可能性が高ければ、そのままの受験校選択でいいと思います。しかし、A高校への合格の可能性が低い場合は、新しい選択肢が生まれます。それは、『「公立」の中での第2志望であるC高校と、「私立」のB高校ではどちらに行きたいか』です。私立のB高校よりは公立のC高校に入学したいという気持ちが強いのなら、合格の可能性を考えて、第1志望をC高校にするという受験校選択もできるのです。(もちろんその場合は、A高校をあきらめることとなりますが…) このように、合格の可能性も考慮しながら、自分にとって一番いい受験校の組み合わせを考えることも、受験に向けての大切な準備の一つなのです。

今回の進路希望調査は、11月の進路懇談会で使用する、「受験校の決定」に向けての調査なのです。多くの情報と様々な選択肢をもとに、自分の進路を見つめてください。